

先月、進路に迷っていたゼミ生から「大学院に合格しました」と連絡がありました。これで今年の私のゼミは3人が大学院へ進学します。残る2人も教員採用試験に合格し、5人全員がそれぞれの道で未来へ歩み出しました。教員として、これ以上にうれしいことはありません。

⑧ よく学び、よく遊ぶ



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

ん。むしろ、「関わることが楽しい」「成長を見ることができてうれしい」という思いの方が強く、気づけば楽しみながら仕事をしています。大学教員という仕事は、私にとつて天職なのかもしれません。



学生指導でも、「楽しみながら学ぶ」エデュテイメントを意識し

ています。私の所属する教育専部では、実践的指導力が重視されており、1年生は学校見学やボランティア、2年生は学校体験活動、そして、3年生では教育実習と忙しい日々が続きます。その上で空き時間には自主的に教員採用試験対策講座に参加する学生の姿を見て、「息抜きも必要だな」と感じています。

声をかけられました。息抜きになればと軽い気持ちで引き受けましたが、練習を重ねるうちに考えが変わりました。「人に笑いを届ける力は、子どもに伝える力につながる」。そう実感したのです。やがて学生たちは、プロも参加する漫才大会や上方落語協会主催の大会に挑戦し、決勝に進出するまでに成長しました。

立科学館や大阪科学技術館といった大きな舞台を用意すると、学生たちは「ぜひやりたい」とやる気満々。舞台を成功させるために理科の勉強にも真剣に取り組む。その成果は日本理科教育学会で学会賞を受賞するまでになりました。



忙しい毎日だったはずですが、学生たちは苦しさよりも楽しさを感じながら活動していました。充実の中に楽しみを見いだしていたのだと思います。その教子は卒

業後、大学院へ進学し、現在は教育学部の大学教員として活躍しています。そして今、その姿が後輩たちのロールモデルとなり、「自分も大学院へ進みたい」と考える学生が増えてきました。

「よく学び、よく遊ぶ」と言います。遊びは単なる息抜きではなく、新しい学びや成長を生み出す大切な時間です。楽しさの中でこそ、人は本気になり、大きく伸びていく。学生たちの姿が、そのことを教えてくれました。

これからも、よく学び、よく遊ぶ。そんな学びの場を学生たちと一緒につくっていききたいと思っています。

新しい成長生み出す遊びの時間